

# 新フェローの紹介

## 岩田 怜 (いわた さとし) 氏

昭和16年10月6日生れ

〔現住所〕愛知県江南市古知野町

〔学歴〕昭和40年 東京理科大学理学部応用数学科卒業

〔職歴〕

昭和40年 名古屋鉄道(株)入社

昭和51年 (株)名鉄コンピュータサービス出向

昭和62年 同社取締役貨物運輸システム部長

平成5年 同社常務取締役

〔OR学会関係〕評議員 昭和51~52年度・昭和57年度~平成3年度・平成6年度~現在, 中部支部幹事 昭和49~50年度, 同運営委員 昭和51~60年度・平成7年度~現在, 同副支部長 昭和61~62年度, 同支部長 昭和63年度~平成元年度, 同支部監事 平成2~5年度

〔著書等〕論文, 講演多数

岩田氏は、鉄道、バス、貨物運輸業務等のシステム開発およびシステム運用に従事する中で、鉄道・バスのダイヤおよび乗務行路の作成、貸切バスの配置計画、乗車券発売機の配置と待ち行列、貨物運輸の輸送計画等々、数多くの実践面での事例に対して、種々のOR技法を適用しながら、問題解決を行ってこられ、また、長い間学会本部評議員として、さらには中部支部役員として活躍され、本学会の運営と発展に多大な貢献をされています。

## 川崎 英文 (かわさき ひでふみ) 氏

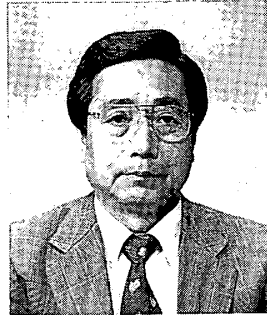
昭和30年11月26日生れ

〔現住所〕福岡県福岡市早良区原

〔学歴〕昭和53年 九州大学理学部数学科卒業

昭和55年 同大学大学院理学研究科修士課程修了

昭和58年 同大学院理学研究科博士後期課程退学



昭和63年 理学博士

〔職歴〕

昭和58年 九州大学理学部数学科助手

平成3年 同講師

平成6年 同大学院数理学研究科助教授

〔OR学会関係〕第20回 文献賞 平成4年度

〔著書等〕論文15編, 講演発表31件

川崎氏は、数学科に籍を置かれ、長年にわたって非線形計画法・微分不可能計画法・多目的計画法の基礎理論の構築に取り組みされてこられました。特に、無限個の不等式制約を持つ最適化問題に対する包絡線効果を発見され、この分野に一石を投じられました。氏は現在、変分問題・最適制御問題について包絡線効果の影響をご研究中です。さらにこれと関連して、ルジャンドル条件と共役点の研究にも取り組まれています。また、OR学会関係では、福岡においてOR研究部会、計画数学セミナーの幹事を務められるなど、数学サイドからOR学会に種々貢献されておられます。

## 小池 清 (こいけ きよし) 氏

昭和9年5月11日生れ

〔現住所〕神奈川県逗子市山の根

〔学歴〕昭和34年 横浜市立大学数学科卒業

昭和36年 ケース工科大学大学院経営学部留学

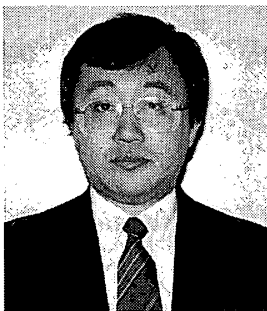
〔職歴〕

昭和39年 日本アイ・ピー・エム(株)入社, 科学技術計算部門, データセンター営業所長, IBM China 出向等を経て, 平成元年環境問題マネージャーに就任 平成5年 キックス総研(株)設立, 現在に至る。

〔OR学会関係〕理事(庶務) 平成3~4年度, 評議員 平成6年度~現在, その他財政問題検討委員, 学会運営検討委員等を歴任。

〔著書等〕IBMの環境対応(ダイヤモンド社, 1993), 地球環境と企業(共著, 都市文化社, 1994), 環境百科(企画編集, 日本事務機械工業会, 1996)

小池氏は、環境問題が21世紀へ向けてのグローバルな問題であり、この大問題解決のための政策決定課程



でOR手法をどう役立てられるか、コンピュータ・環境問題コンサルタントとして活動されるかかわら、学会の環境問題研究グループ主査としてこの問題に取り組まれておられる他、学会庶務理事・新宿OR研究会幹事等を歴任されるなど、本学会の運営・発展に多大な貢献をしてこられました。

## 瀬尾 芙巳子 (せお ふみこ) 氏

昭和4年8月5日生れ

〔現住所〕兵庫県尼崎市塚口町

〔学歴〕昭和28年 東京大学  
経済学部経済学科卒業

昭和32年 同大学経済学部  
(旧制)大学院修了

昭和42年 経済学博士

平成5年 京都大学名誉教授

〔職歴〕

昭和31年 関西大学商学部助手

昭和34年 同専任講師

昭和37年 同助教授

昭和40年 京都大学経済研究所助教授

昭和48年 ハーバード大学経済学部客員研究員

昭和54年 国際応用システム解析研究所 (IIASA) 研究員

昭和58年 京都大学経済研究所教授

平成5年 摂南大学経営情報学部教授

この間、関西大学、立命館大学、広島大学、九州大学等の非常勤講師を歴任。

〔OR学会関係〕平成8年度秋季研究発表会実行委員  
〔著書等〕多目的評価と意思決定 (日本評論社, 1964), Multiple Criteria Decision Making in Regional Planning: Concept, Methods, and Applications (共著, D.Reidel Publishing, 1988), 思考の技術—あいまい環境下の経営意志決定 (有斐閣, 1994), 他著書4冊, 学術論文 (査読付き, および招待) 68編, 他国内外での刊行物, 発表多数。

瀬尾氏は、経済学の研究から出発して、1970年代の末頃から数理計画および意思決定分析の分野にその主たる研究対象を移され、特に多目的決定分析およびファジイ決定分析の基礎的および応用的研究に多大の業績を挙げておられます。その主な内容は、意思決定の1つの局面である解析的な過程とならんで、いま1つの局面である決定者の判断的な過程をいかに合理的に



構築し、また結合するかという方法論的な考察を、従来の古典的な決定分析の一般化ないし拡張として行うことであり、特に、不確実性下の決定者の選好評価を多目的ならびにファジイ評価に拡張することを志向しておられ、それには、ファジイ協力ゲームを含む集団的意思決定問題への拡張も含まれています。また他の主題は、知的意思決定支援システム (IDSS) の構築に関する研究で、IDSSは、公理的基礎に基づく決定者の判断的過程を支援するシステムとしてその概念的な構成が考察されるとともに、現実的な経営的決定問題において最適戦略を選択することを容易にするために、決定分析のためのコンピュータ・プログラムの開発をも行っておられ、また、本学会の運営にも研究発表会実行委員等として貢献をされておられます。

## 田畑 吉雄 (たばた よしお) 氏

昭和18年2月26日生れ

〔現住所〕京都府京田辺市新小欠

〔学歴〕昭和46年3月 京都大学大学院工学研究科数理工学専攻博士課程修了 (工学博士)

〔職歴〕

昭和46年4月 大阪大学経済学部助手

昭和49年1月 同基礎工学部講師

昭和52年4月 同工学部助教授

昭和62年2月 同経済学部教授

〔OR学会関係〕評議員 昭和59年度～平成元年度・平成8年度～現在, 理事 (無任所) 昭和61～62年度, 関西支部運営委員 昭和47年度～現在, 現在同副支部長

〔著書等〕経済・経営の統計学 (共著, 培風館), 数理ファイナンス論 (牧野出版), 現代OR入門 (編著, 現代数学社) 他著書2冊, 翻訳書6冊, 査読付き論文25編, その他19編。

田畑氏は、逐次意思決定過程、特に、マルコフ決定過程の分析にDPを適用して数々の研究業績をあげられたほか、くじと状態に依存した効用汎関数を導入して期待効用理論の代表的なパラドックスを解決されました。最近では、ファイナンスにOR手法を適用する研究に興味を持たれており、学会においてファイナンス理論の重要性を啓蒙されたうちのお1人です。さらに、分かりやすい教科書の執筆を通して統計学の教育



にも功績をあげておられます。

また、本学会の評議員、理事を歴任されたほか、25年間にわたり関西支部の運営委員を務められ、4月からは副支部長に就任されるなど、本学会の運営と発展に多大な貢献をされておられます。

### 水野 真治 (みずの しんじ) 氏

昭和31年10月24日生れ

〔現住所〕埼玉県所沢市中富南

〔学歴〕昭和54年 東京工業大学工学部経営工学科卒業  
昭和59年 同大学総合理工学研究科システム科学専攻博士課程修了

昭和59年 理学博士

〔職歴〕

昭和59年 千葉工業大学工学部助手

昭和61年 東京工業大学工学部助手

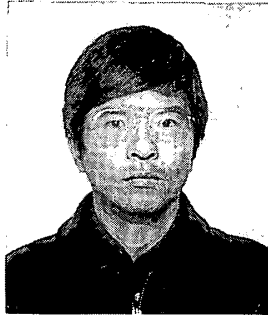
平成2年 統計数理研究所助教授

この間コーネル大学、ヴェルツブルク大学客員研究員を歴任

〔OR学会関係〕第19回 文献賞授賞 平成3年、研究普及委員 昭和61~62年度、機関誌編集委員 平成7~8年度、現在論文誌編集委員。

〔著書等〕情報システムハンドブック (共著、培風館)、アルゴリズム辞典 (共著、共立出版)、離散構造とアルゴリズムIV (共著、近代科学社)、Interior Point Methods in Mathematical Programming (共著、Kluwer Academic Publishers)、原著論文42編、その他34編、学会発表多数

水野氏は、多変数方程式系を解く不動点アルゴリズム、あるいはCADにおける交点と交線の計算について研究をされてこられました。最近は、線形計画問題と相補性問題を解く内点法の研究をされています。内点法の研究では、主双対内点法の開発とその解析およびインフィジブル内点法の収束性に関して多くの成果を上げ、本学会から文献賞が、そしてアメリカオペレーションズリサーチ学会から他の4氏と共同でLanchester賞が授与されました。また、本学会の運営・発展にも各種委員、研究部会主査として多大な貢献をされています。



### 村尾 洋 (むらお よう) 氏

昭和5年6月24日生れ

〔現住所〕東京都小金井市東町

〔学歴〕昭和28年 お茶の水女子大学理学部数学科卒業

昭和36年11月~38年2月 スイス国立工科大学留学

昭和56年 工学博士

〔職歴〕

昭和28年 日本電信電話公社電気通信研究所入所

昭和34年 同研究所研究主任

昭和45年 同研究所研究専門調査役

昭和57年 芝浦工業大学工学部工業経営学科教授

〔OR学会関係〕平成7年度秋季研究発表会実行委員

〔著書等〕待ち行列数表 (共著、日本電信電話公社電気通信研究所)、システム工学 (共著、オーム社)、情報と通信の理論 (共著、丸善)、論文等24編、発表多数。

村尾氏は、日本電信電話公社電気通信研究所入所後、通信需要予測、通信および情報分野におけるシステムの性能評価、特に通信トラヒックおよびデータ処理の輻輳特性解析方法に関する研究に携わってこられました。電子交換、データ通信、パケット網等の新システム開発に伴い提起された周期処理、ラウンドロビンサービス、集団到着、集団処理、および定時割り込み優先処理等の各種待ち行列モデルの解析や解法の提供とその適用、モデル間の基礎的関係構造解明等に貢献されました。大学勤務後は、情報システムのソフトウェア開発効率向上には、機能の数理モデル化以前に、システム全体の概念構造に対する十分な形式化が必要と考え、ソフトウェア科学および工学にも興味を持ち、OR的アプローチの更なる活用を目指しておられます。研究所勤務以来、システム開発研究側から理論研究側への問題提起と、理論研究成果のシステム開発への活用に関する協力活動に学会を通して参加、その継続および継承に長年努力され、本学会の発展に寄与されました。



## 村上 周太 (むらかみ しゅうた) 氏

昭和17年1月8日生れ

〔現住所〕福岡県北九州市小倉北区熊谷

〔学歴〕昭和44年3月 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程制御工学専攻単位取得退学

昭和44年9月 工学博士

〔職歴〕

昭和44年4月 九州工業大学工学部講師

昭和45年3月 同助教授

昭和59年2月 同教授

〔OR学会関係〕九州支部運営委員 昭和53年度～現在, 同副支部長 平成4～5年度, 同支部長 平成6～7年度, 評議員 平成8年度～現在.

〔著書等〕講座ファジィ第5巻・ファジィ制御 (共著, 日刊工業新聞社, 1993), ファジィシステム演習問題集 (監修, 工業調査会, 1992), 他著書2冊, 論文60編, 発表・講演多数.

村上氏は, 意思決定分析の理論とその応用に関する研究をはじめ, ファジィ意思決定分析, ファジィエキスパートシステム, ファジィ制御の分野においても顕著な研究業績をあげておられ, 特にファジィ制御の分野では日本での草分け的な研究者の1人にあげられる.

また, 本学会においても, 評議員や支部役員として活躍され, 特に支部運営においては, 運営委員, 副支部長, 支部長, 春季研究発表会実行委員 (4回) と長年にわたって活躍され, 学会の運営と発展に多大な貢献をしてこられました.

## 八巻 直一 (やまき なおかず) 氏

昭和19年1月14日生れ

〔現住所〕静岡県浜松市文丘町

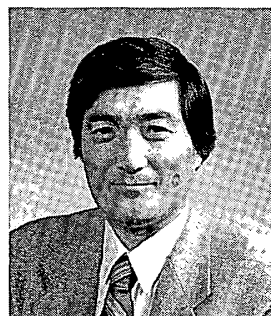
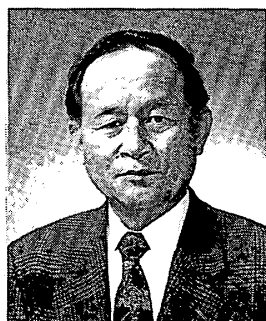
〔学歴〕昭和42年3月 東京理科大学理学部応用数学科卒業  
昭和45年3月 同大学大学院理工学研究科修士課程数学専攻修了 工学博士

〔職歴〕

昭和45年4月 東京理科大学理学部応用数学科助手

昭和57年4月 ㈱システム計画研究所取締役

平成8年12月 静岡大学工学部システム工学科教授



この間, 青山学院大学, 早稲田大学, 筑波大学大学院, 東京理科大学等の非常勤講師を歴任.

〔OR学会関係〕第3回 事例研究奨励賞ソフトウェア部門 昭和63年度, 第7回 事例研究奨励賞ソフトウェア部門 平成3年度, 会計幹事 平成4～7年度.  
〔著書等〕パソコン FORTRAN 版: 非線形最適化プログラミング (日刊工業新聞社) 他9編, 論文等55編, 学会発表55件.

八巻氏は, 永年にわたって非線形計画法のアルゴリズムの研究を続けてこられ, 一方でOR関連のソフトウェアの開発にも熱心に取り組んでこられました. 学会ではORソフトウェア研究部会を運営され, ソフトウェアやアルゴリズムの紹介にとどまらず, あるいは特許や著作権などの権利保護問題など幅広い問題を発掘してこられました. また, 若手の研究者に対する接触にも積極的で, 将来のOR学会を担う年齢層の活性化に熱心に取り組んでおられるとともに, ソフトウェア会社の活動を通して, 産業界でORを用いたコンサルテーションやソフトウェア開発を数多く経験され, ORの応用普及に貢献してこられました. 特に, 非線形計画法の啓蒙と実装で産業界に貢献し, 新しいORの可能性に産業界の目を向けさせることに熱心に取り組んでこられるなど, 本学会の運営・発展にも多大な貢献をしてこられました.

## 山下 浩 (やました ひろし) 氏

昭和21年7月9日生れ

〔現住所〕東京都保谷市本町

〔学歴〕昭和46年 早稲田大学理工学研究科理論核物理学専攻修了

〔職歴〕

昭和46年 ㈱小野勝章事務所 入社

昭和50年 同社取締役

昭和57年 ㈱数理システム設立 同社代表取締役社長  
〔OR学会関係〕

研究普及委員 昭和53～55年度, 評議員 平成2～5年度・平成8年度～現在.

〔著書等〕非線形計画法 (共著, 科技技連出版社), C++プログラミングスタイル (共著, オーム社), 他分担執筆1冊, 論文27編, 講演発表多数.

山下氏は, ORの分野では数理計画法, 特に非線形最適化のアルゴリズムとそのインプリメンテーション



## 経営システムのモデリング学習

—STELLAによるシステム思考—

森田道也編著/A5判・本体 2,800円/CD付  
パソコンとシステムダイナミクスを導入し、経営・経済システムに関する基礎的概念を学習するための教科書。巻末に添付したSDソフトSTELLAのデモ版を使って、画面のモデルを操作しながら具体的に学習可能。

## 理工系システムのモデリング学習

—STELLAによるシステム思考—

岡野道治ほか著/A5判・本体 2,400円/CD付  
今日、高校や大学教育にシステムの思考を導入する必要性が強く叫ばれている。本書は、著者たちがSTELLAを利用したシステムの思考教育を試みた経験をもとにまとめた意欲的教科書。物理、化学、生物の基礎から工学的諸問題まで。

数理情報科学シリーズ16.

## 劣微分と最適問題

—凸解析入門—

津野義道著/A5判・本体 2,900円

凸関数の最小値を求める問題に焦点を当てる。標準的な凸解析の概念から説き起こし、制約領域付最適問題の解の特徴づけおよびそのアルゴリズムを詳述する。さらに、不確実性下における最適問題の解決法に言及し、将来への展望を示す。

## Mathematica 数値数式プログラミング

上坂吉則著/A5判・本体 2,600円

Mathematicaプログラミングの自習書兼リファレンスブック。見本例に基づいて実行する内に、具体的な問題を解くプログラムが自ずと書けるよう、解説に工夫を凝らす。困ったときにリファーしやすい親切なガイド付き。

経済の情報と数理12.

## 多目的意思決定と経済分析

前田 隆著/A5判・本体 3,400円

多目的計画問題をベクトル値最小化問題として定式化し、パレート最適解の特徴づけを厳密に行うことを目的とする。また、経済計画やポートフォリオ分析などの経済問題への応用を試み、斯学の有用性と重要性を提示する。

★価格は税別

発行—牧野書店

114 東京都北区西ヶ原3-60-18  
電話 03 (3949) 2344  
振替 00190-0-661932

発売—星雲社

112 東京都文京区大塚3-21-10  
電話 03(3947)1021・FAX.03(3947)1617

の研究に従事してられました。最近では大規模システムの最適化への適用のためのアルゴリズムについて研究され、また、各種の数理科学的手法を実際のシステムに適用するためのツールとして高速自動微分などの手法を利用したモデリング言語の開発を進めておられます。さらに、科学技術系のソフトウェア会社の経営者として数理計画の手法の実際問題への適用とその普及、日本製のアルゴリズムとソフトウェアの日本国内あるいは海外での普及にも努めておられ、本学会の運営・発展にも研究普及委員・評議員として貢献されています。

若林 信夫 (わかばやし のぶお) 氏

昭和17年 5月 8日生れ

〔現住所〕北海道小樽市富岡

〔学歴〕昭和45年 3月 北海道大学大学院経済学研究科博士課程中退

〔職歴〕

昭和45年 4月 小樽商科大学  
商学部講師

昭和47年10月 同助教授

昭和62年10月 同教授



この間、スタンフォード大学 OR 学科研究員、北海道大学・北海道教育大学・北海学園大学等非常勤講師などを歴任。

〔OR 学会関係〕

理事(無任所)平成元～2年度、評議員 平成4～5年度、北海道支部長 平成7～8年度、その他平成8年度春季研究発表会実行委員長・支部幹事・支部運営委員等を歴任。

〔著書等〕経済学1 価格理論(共著、有斐閣)、現代経済学講義(共著、中央経済社)、データベース管理(共訳、日本コンピュータ協会)他著書、訳書7冊、論文40編、学会発表・国内講演多数

若林氏は、経済の最適化理論と計算を研究の原点とされ、企業や行政のOR問題の実践、インターネットを利用したOR、スプレッドシートORの研究・教育をされています。特に北海道内の諸大学や官庁でのORの普及、発展には著しく貢献をされてきました。

また、本学会においても長年にわたり各種役員を勤められ、本部と支部のパイプ役を果たされるとともに、学会ならびに支部の発展に多大な貢献をされています。